



まいばら

まんすりーれぽーと

お茶の間創造事業が各地でスタート

市が実施する地域お茶の間創造事業に、今年度採択された上丹生区、池下区、一色区が、高齢者の居場所づくりを目的として、事業をスタートしました。

上丹生結いの会発足式 (8月17日)

上丹生区では、結いの会の設立趣旨を区民に伝える発足式が、上丹生公会堂で行われました。結いの会では、子どもから高齢者までが地域で安心して暮らせるよう、居場所づくりや日常生活での困りごと支援を行います。



発足式には約50人が参加し、キャラバン・メイトによるクイズや寸劇で認知症について学んだ後、茶話会では地域伝統の「カラシうどん」が振る舞われました。

池下お茶の間「ほっこり」オープン (8月20日)

池下区では、「ほっこり」をオープンしました。区のボランティアが準備を進め、旧みしま食堂を改装。室内を飾る座布団やテーブルクロスはすべて手作りで、オープニングイベントでは、流しそうめんや、手作りの赤飯のおにぎり、かき氷などで交流を深め、参加者は、「遊びに来るところができて良かった」と笑顔で話しました。

発足式には約50人が参加し、キャラバン・メイトによるクイズや寸劇で認知症について学んだ後、茶話会では地域伝統の「カラシうどん」が振る舞われました。

の赤飯のおにぎり、かき氷などで交流を深め、参加者は、「遊びに来るところができて良かった」と笑顔で話しました。

「ほっこり」は、区民や観光客の憩いの場として、毎週火曜日から日曜日の10時～16時に営業し、コーヒーやかき氷などを販売する予定です。



一色ハートフルサポート事業始動式 (8月30日)

一色区では、ハートフルサポート事業の始動式がS・Cプラザで行われ、区民およそ60人が参加しました。始動式では、サポート隊長の選任や血圧計などが当たる抽選会、手作りのお弁当が振る舞われ、参加者はふれ合いを楽しみました。

今後は、サロンや、地域の若者に郷土料理を伝える催し、軽スポーツ、昔の写真を用いた「昔お話し会」などを計画し、安心して暮らせる地域の拠点づくりを目指します。



おかえりやす！米原 (8月15、16日)



お盆の帰省時期に合わせた8月15日、16日の2日間、米原駅自由通路のJR西日本改札口前で、「おかえりやす！米原～米原ふるさとフェア～」を開催しました。

改札口前には、米原のお土産にと市内の物産品を並べ、市商工会、観光協会関係者らが市内の観光地やイベントのPRを行いました。

15日は、米原へ帰ってきた人、米原から地元へ帰る人、米原を経由して帰省する人たちが立ち寄り、ふるまわれた笹麦茶でのどを潤したり、米原のお土産を手にとりました。

伊吹山中ホッケー部全国大会壮行会 (8月12日)



伊吹山中学校ホッケー部が、夏季総合体育大会の県大会で優勝、近畿大会で男子4位、女子優勝に輝き、男女ともに全国大会への出場を決めました。

県立伊吹運動場で行われた壮行会では、山本教育長が部員を激励し、男子主将の山田匠さんと女子主将の畑野朱音さんは「一人ひとりが全力を出し、練習の成果を発揮できるよう頑張りたい」と全国大会での活躍を誓いました。

全国大会は、8月15日～18日に熊本県小国町で行われ、男子がベスト8に進出しました。